国土交通省　東北地方整備局
玉川ダム管理所

管理概要





目　次

１．位置図　・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ　１
２．玉川ダムの概要　・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ　２
３．ダムの運用　・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ　６
４．今年度事業概要　・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ　７
５．ダムの効果（洪水）　・・・・・・・・・・・・・　Ｐ　９
６．ダムの効果（渇水）　・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１０
７．酸性水中和処理　・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１１
８．鎧畑ダムとの連携運用　・・・・・・・・・・・・　Ｐ１３
９．玉川水系ダム群連携運用　・・・・・・・・・・・　Ｐ１４
１０．ダムの運用高度化への取組・・・・・・・・・・・　Ｐ１５
１１．玉川ダムの広報　・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１６
１２．ダムカード　・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１７

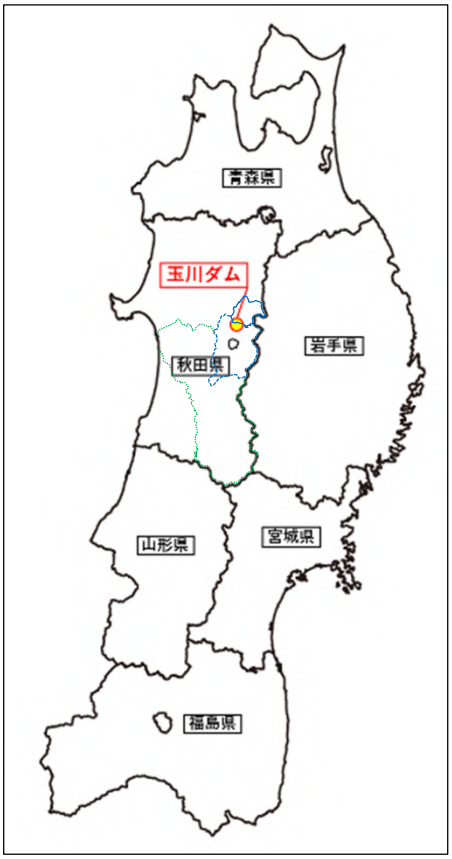


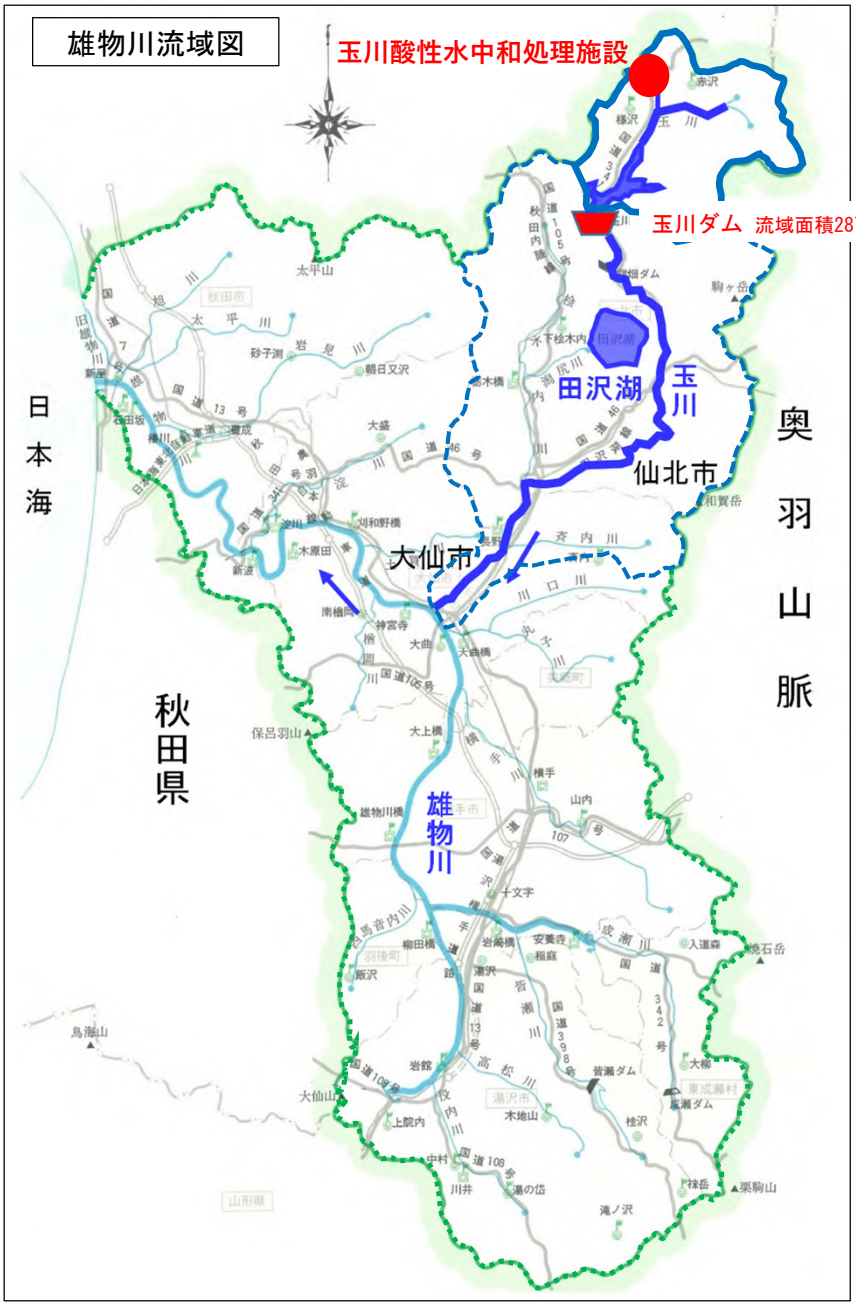
上空から見た玉川ダム（上）と鎧畑ダム（下）

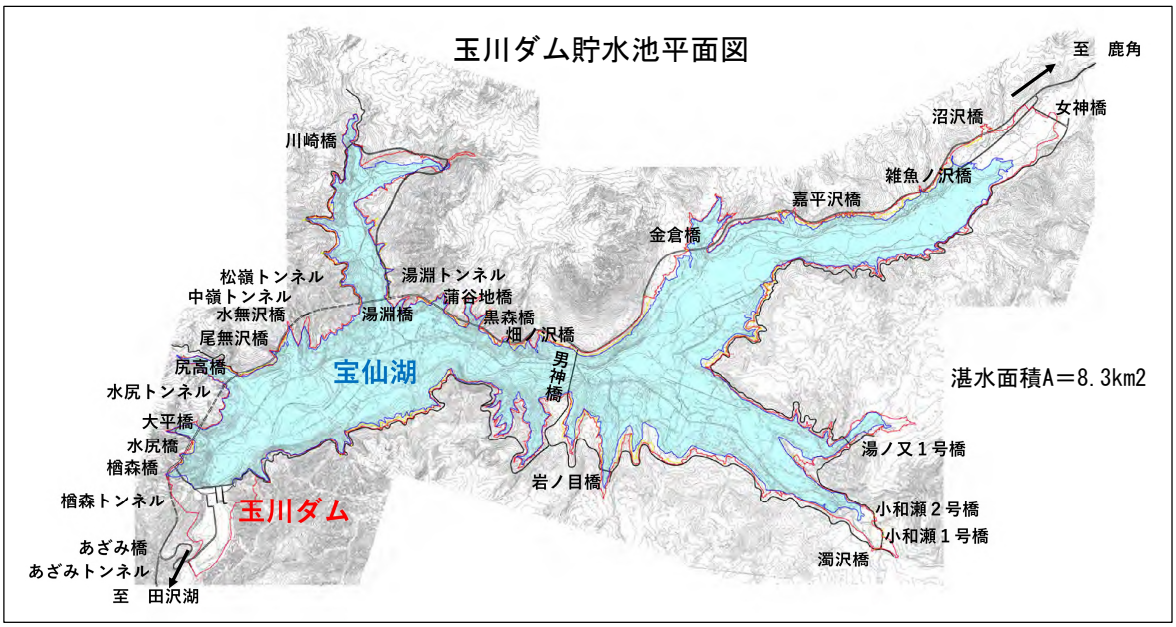
1．位置図

秋田県の雄物川水系玉川の上流部仙北市田沢湖玉川に位置し、平成２年竣工、平成３年より管理運用。
ダム湖名は「宝仙湖」

玉川　流域面積＝１，２１９ km2
流路延長＝　　１０３km







2．玉川ダムの概要（１）

ダムの目的

玉川ダムは雄物川の最大支川である玉川の上流に建設された重力式コンクリートダムであり、その目的は洪水調節をはじめとした６つの役割を担っており、雄物川沿川の生活基盤及び産業基盤を築くうえで大きな役割を果たしています。

Flood Control

洪水調節

洪水被害を軽減します。
ダム地点計画高水流量2,800m3/sを200m3/sに調節します。

Normal Function of the River Water

流水の正常な機能の維持

流水の正常な機能を維持します。
下流基準点の広久内地点、長野地点、椿川地点において、流水をいつも一定に保つことで、川としての機能を守ります。

Agriculture

かんがい用水の補給

かんがい用水を補給します。
雄物川および玉川沿線の仙北平野（主に神代（じんだい）ダムから下流）の農地に対し、農業用水を補給しています。

Water Supply

上水道用水の供給

上水道用水を供給します。
水道用水として秋田市に対し、水を供給しています。

Industrial Water

工業用水の供給

工業用水を供給します。
秋田湾周辺の工業地域に、供給することができます。

Power Generation

発　電

発電を行います。
ダムのすぐ下にある玉川発電所で発電を行います。

2．玉川ダムの概要（2）

玉川ダムのあゆみ

昭和４６年	４月	湯沢工事事務所においてダム予備調査を開始
昭和４８年	４月	玉川ダム調査事務所発足、ダム実施計画調査に入る
昭和４９年	１０月	ダム建設用地調査開始
昭和５０年	１０月	玉川ダム工事事務所に名称変更
昭和５２年	３月	水源地域対策特別措置法による指定ダムとなる
昭和５２年	８月	玉川ダムの建設に関する基本計画告示
昭和５３年	１月	玉川ダム建設に伴う損失補償協定調印
昭和５３年	５月	付替道路工事着手
昭和５４年	１月	水源地域対策特別措置法による水源地域指定（整備計画は昭和54年3月）
昭和５５年	８月	玉川ダム本体工事着工
昭和５６年	９月	ＲＣＤ工法による試験施工着工
昭和５８年	９月	玉川ダム本体コンクリート打設開始
昭和５９年	６月	定礎式
昭和６１年	５月	玉川ダム本体コンクリート打設１００万m3達成
昭和６３年	２月	玉川ダム管理所庁舎完成
昭和６３年	９月	付替道路国道３４１号（２工区～７工区）供用開始
昭和６３年	１０月	二次転流
平成　元年	３月	鎧畑（よろいはた）ダム利水放流設備新設工事着工
平成　元年	１０月	玉川ダム試験湛水開始
平成　元年	１０月	玉川酸性水中和処理施設試験運転開始
平成　２年	４月	玉川ダムサーチャージ水位到達
平成　２年	５月	玉川ダム土木学会技術賞受賞
平成　２年	９月	国道３４１号全面供用開始
平成　２年	１０月	玉川ダム竣工式
平成　３年	４月	玉川ダム管理所へ移行
平成　３年	４月	玉川酸性水中和処理施設本運転開始
令和　３年	４月	管理３０周年
令和　３年	６月	玉川ダム・鎧畑ダム連携協定締結

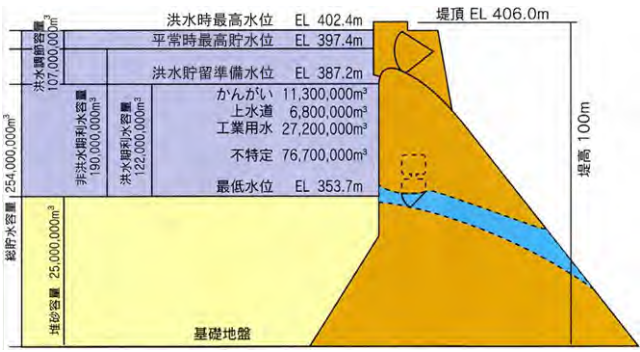
玉川ダム・貯水池の諸元

玉川ダム及び貯水池「宝仙湖」の諸元は、以下のとおりです。

ダム・貯水池　諸元

河川名		一級河川雄物川水系玉川
貯水池	流域面積	287.0km2
	湛水面積	8.3km2　東北第１位
	総貯水容量	254,000千m3
ダム	形式	重力式コンクリートダム
	堤頂標高	EL.406.0m
	ダム高	100.0m
	堤頂長	441.5m
	堤頂幅	7.0m
	堤体積	１１５万m3
	取水設備	表面取水設備　3段ローラーゲート　1門
	放流設備	クレストゲート　ラジアルゲート　幅8.6m×高さ12.365m　４門　放流能力：4門で2,800m3/s オリフィスゲート　高圧ラジアルゲート　幅4.0m×高さ3.5m　1門　放流能力：200m3/s コンジットゲート　高圧ラジアルゲート　幅2.9m×高さ3.0m　2門　放流能力：2門で500m3/s 利水放流設備　ジェットフローゲート　φ2,400mm　1門　放流能力：66.1m3/s
総事業費		1,220億円

貯水池容量配分図



2．玉川ダムの概要（3）

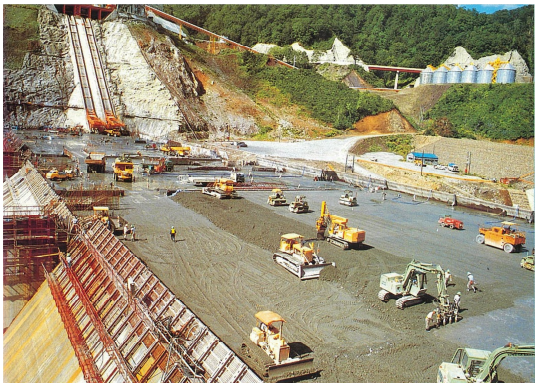
玉川ダムの特徴

○大規模ダムで初のＲＣＤ工法

玉川ダムは、従来工法より工期の短縮、省力化を図るため国土交通省（旧建設省）が当時世界に先駆けて開発したＲＣＤ工法により、コンクリート打設を行いました。

ＲＣＤ工法は、超硬練りのコンクリートをダンプトラック、ブルドーザ、振動ローラなどの汎用機械により打設するコンクリートダムの合理化施工法です。

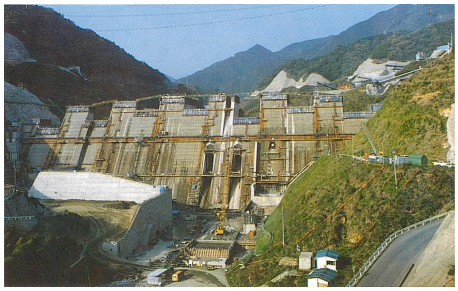
高さが１００ｍ級の大規模ダムで、この工法が採用されたのは玉川ダムが初めてです。



RCD工法で施工中の玉川ダム全景



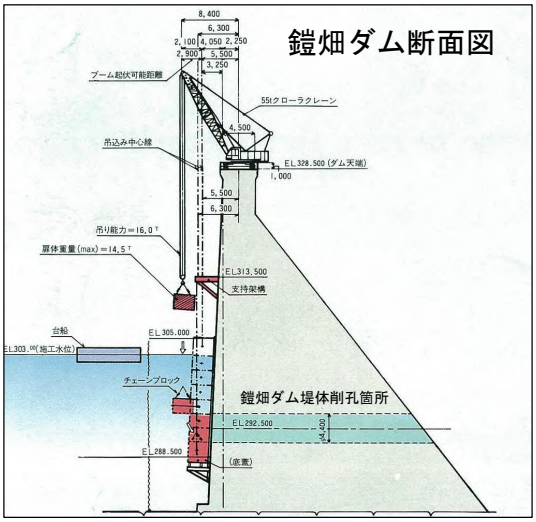
インクラインによるコンクリートの運搬



従来工法の柱状ブロック工法

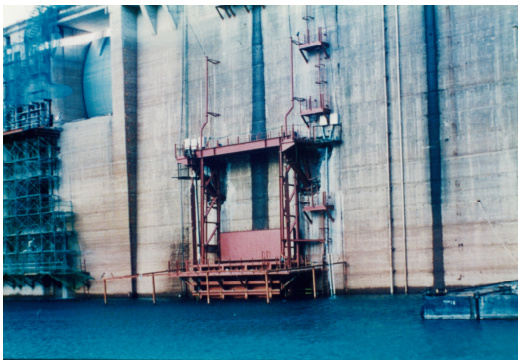
○玉川ダム建設に伴う鎧畑ダムの利水放流管新設

玉川ダムの建設に伴い、当時の鎧畑ダムでは最大取水量35.0m3/sの発電設備があるのみで、玉川ダムで必要な利水補給(最大66.1m3/s)は不可能だったことから、鎧畑ダムを運用しながら鎧畑ダム堤体を削孔し、新たな放流管(φ3.2m,放流能力69.1m3/s)を設置しました。





新放流管設置後の通水状況



鎧畑ダム上流面での仮締切設置状況



鎧畑ダム下流面での堤体削孔状況（ロードヘッダ）

2．玉川ダムの概要（4）

○玉川酸性水中和処理

玉川ダム上流の玉川支川渋黒川の源流域には塩酸を多く含む玉川温泉が湧出しており、酸性の玉川は長い間下流農民を苦しめてきました。また、農業はもちろんのこと、生活用水にも適さず、発電・河川構造物にも被害を与えるなど、流域住民にとってこの玉川の水質改善は長年の悲願となっていました。

これらの対策の経緯をふまえ、国土交通省（旧建設省）が実施している玉川ダム事業の一環として、酸性中和処理施設を建設し、対策に取り組んでいます。



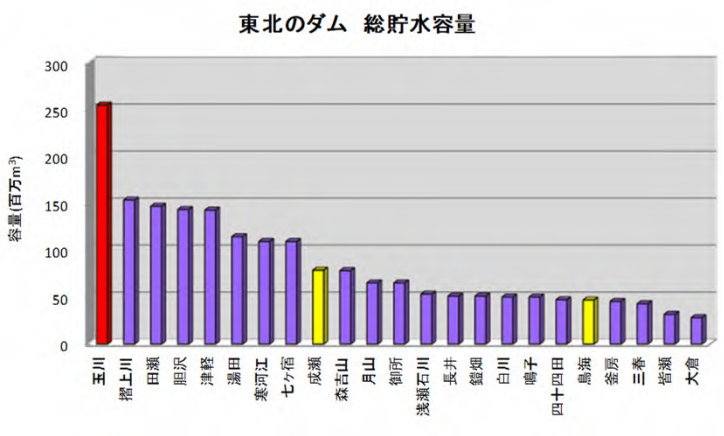
玉川酸性水中和処理施設全景



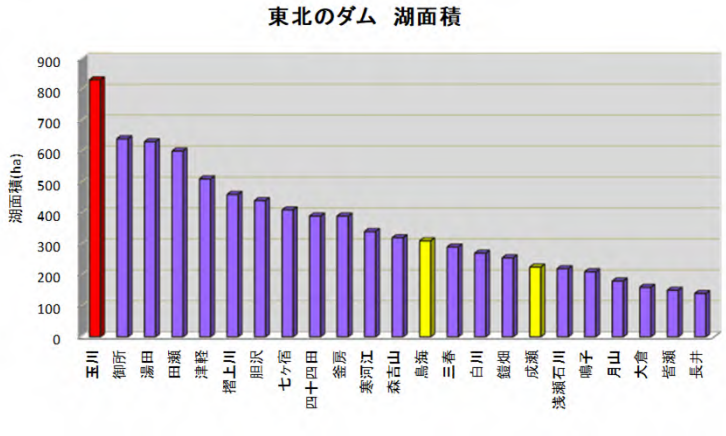
中和処理を行う中和処理棟内

○玉川ダムの規模

玉川ダムによってせきとめられてできた宝仙湖の貯水容量・湖面積は、国土交通省管理ダムでは東北最大です。



全国第１１位、国土交通省所管全国第３位、東北第１位

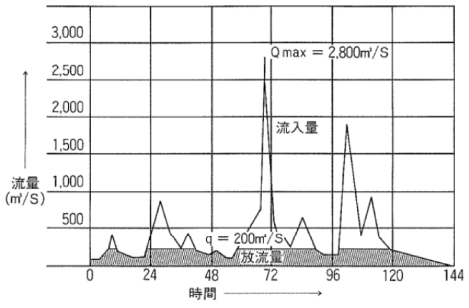


※令和７年４月１日現在

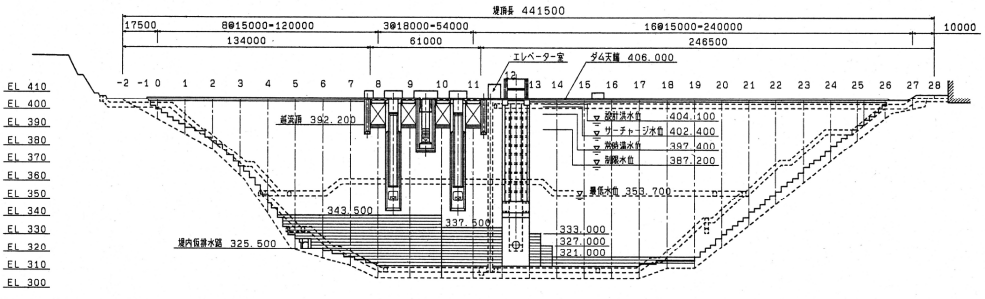
3．ダムの運用

洪水調節計画

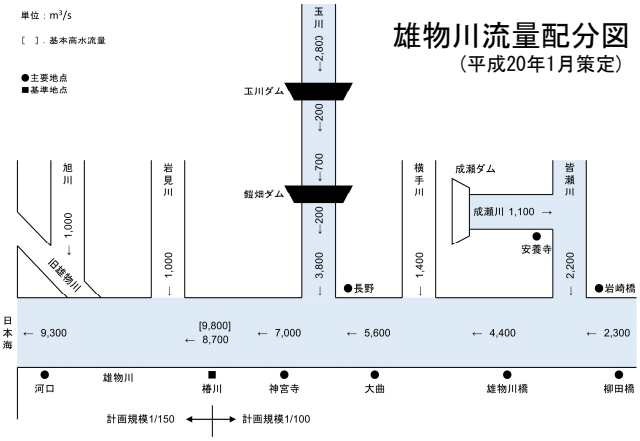
洪水調節計画図



玉川ダム上流面図

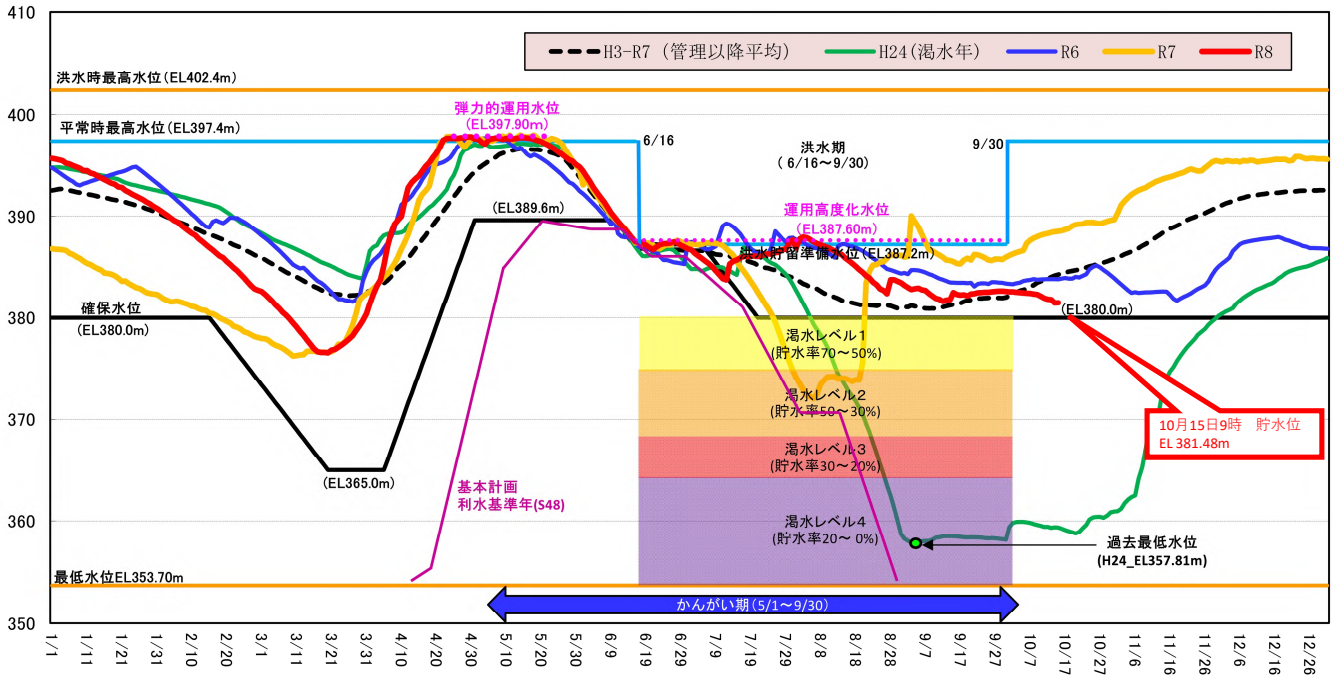


最大流入量 2,800m³/s ⇒ 最大放流量 200m³/s（S22.8 洪水波形）
最大調節量　　:2,600m³/s
洪水調節方式　　:一定量放流方式
治水容量　　:107,000,000m³





貯水池運用状況



4．今年度事業概要（1）

主な工事

ダムに流れ込む流木塵芥の回収、ダム堤体周辺の除草・清掃等を行い、ダムの機能を維持します。
また、ダムの遠隔操作化に向けた工事を行います。


流木塵芥回収状況

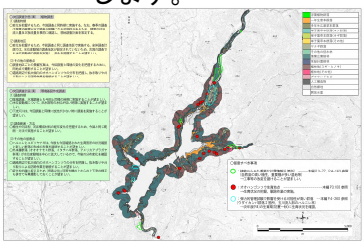

ダム堤体周辺除草状況


情報連絡所における
遠隔操作機器配置イメージ

主な調査

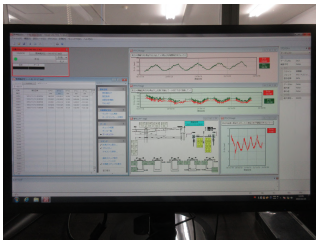
ダム完成後の環境への影響と環境保全措置の効果を把握するため、動植物調査、鳥類、魚類等のモニタリング調査を実施しており、令和８年度は植物（植生）や水域の状況を空中写真などから判読・図面化した河川環境基図の作成を実施します。

また、ダム管理の基本となる流量観測や、貯水池及び上下流河川５箇所の定期採水及び水文・水質データ（水位・雨量・水質）収集、水質分析調査を行うとともに、ダム堤体上流の男神地区の地すべり調査及び解析を実施します。


河川環境基図


流量観測


定期採水


地すべり監視画面

ダム監視・点検

ダムの適正な管理のため、ダム堤体観測データ（揚圧力・漏水量・たわみ）の収集、ダム及び貯水池の巡視を行い、異常がないか監視を続けます。

また、玉川ダムに関わる通信設備及び放流設備等の点検を行います。


ドローンによる堤体巡視状況


通信設備点検


ゲート設備点検


堤体監査廊巡視状況


ダム堤体計測機器

監査廊内には漏水量計やたわみ計、地震計など様々な計測計器が設置されており、ダム堤体に異常が生じていないか常に計測と点検を行っています。

4．今年度事業概要（2）

ダムの運用

○洪水時の対応

洪水が予想される時には、気象情報や各観測所からの雨量・水位等のデータ情報をもとに、今後のダム流入量を予測し、洪水調節及び放流量の見通しを検討します。放流にあたっては、あらかじめダム下流の河川を利用している人にスピーカーやサイレンによって注意を喚起し、警報車によるパトロールを行う一方、関係する機関に通知し、ダムのゲート操作等の運用を行います。

○平常時の対応

ダム下流河川の流水の正常な機能の維持、水道用水の供給等のために、河川流量を日々監視し、ダムからの放流量を調整します。



ゲート操作室

貯水池周辺管理

ダム湖及び周辺法面等に、異常・変調がないか、ゴミ等の不法投棄の監視を行っています。

また、ダム上流の男神地区においては、地すべりを監視する観測計器が設置されており、地すべりの監視及び観測計器の修繕を行っています。



貯水池巡視状況



地すべり計器修繕状況

中和処理運転・管理

玉川温泉の大噴から噴き出す温泉水の大部分を中和処理施設に導水し、石灰石を投入し、中和処理を行って玉川支川渋黒川に放流する中和処理作業の運転管理を365日24時間続けています。

運転と併せて、施設への流入水、施設により処理された処理水等の水質を計測し、正常に中和処理が行われているか監視しています。



中和処理施設内の中和処理棟（左）・石灰石サイロ（中）・管理棟（右）



365日24時間中和処理を行う中和処理棟内

5．ダムの効果（洪水）

令和７年８月20日～21日における玉川ダムの効果

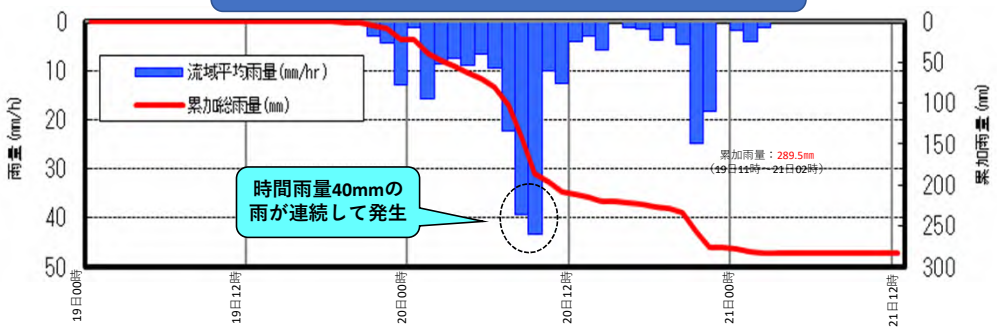
令和7年8月20日～21日の出水で、下流河川の水位を低減しました。

- 玉川ダム流域では、8月19日11時から雨が降り始め、流域平均累加雨量は289.5mmを観測しました。
- ダム流入量は20日10時のピーク時で**1,096m³/s（既往第3位）**を記録し、ほぼ**全量をダムに貯留**しました。
  （総貯留量：4,200万m³、**東京ドーム約３４杯分**※１）
- 玉川ダムでの洪水貯留により、**大仙市長野地点の河川水位を約２．２m低減**させたと推測されます。
- 仮に、玉川ダムがなかった場合、大仙市長野地点において**避難判断水位（WL.3.7m）を超過すると推測**されるため、洪水被害防止に効果があったと考えられます。

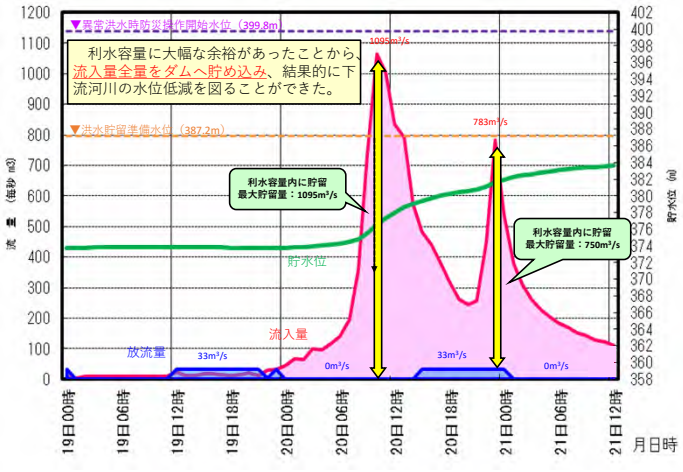
※１　玉川ダム貯留量　約42,000千m³　8月21日８時時点



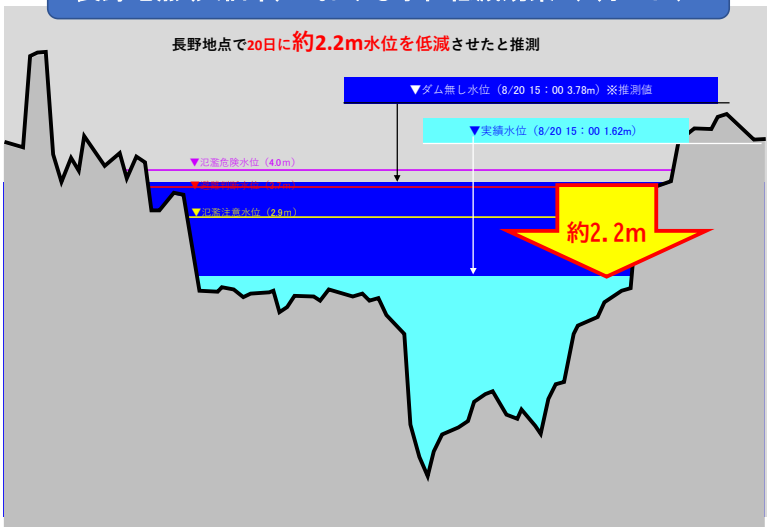
玉川ダム流域平均雨量状況



玉川ダム貯水位・流入量・放流量



長野地点（大仙市）における水位低減効果（8月20日）



玉川ダム貯留状況



玉川ダムで
東京ドーム
約３４杯分※1
貯留

長野水位観測所付近の状況



6．ダムの効果（渇水）

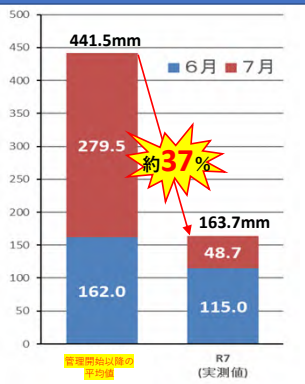
令和７年渇水時における玉川ダムの効果

◆玉川ダム流域の令和7年6～7月降水量は、H3（1992）年の管理開始以降の平均に対して約３７％と少なく、特に7月は同管理開始以降の最少値となる48.7mm/月（平均に対して約１７％）を記録しました。
◆少雨の影響により、8月6日には、令和７年最低の貯水率３９．９％（過去5ヶ年の６割程度）まで低下しました。
◆このペースで貯水率が低下した場合８月中旬には貯水率がゼロになることが想定されたため、玉川ダムでは「雄物川水系渇水対応タイムライン（R3.6月策定）」に基づき関係機関と調整を行い玉川水系ダム群（玉川ダム・鎧畑ダム・田沢湖）で連携操作を実施。
◆玉川ダムでは７月から８月で総量約９６百万立方メートル（東京ドーム約７７杯分）の利水補給を実施し、渇水に対応しました。

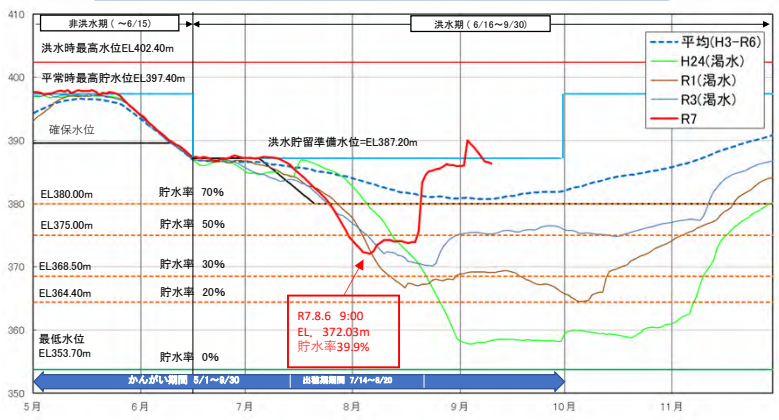
玉川ダムからの用水補給区域



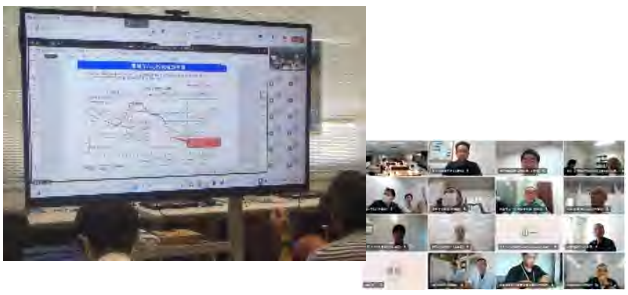
玉川ダム流域降雨量（６～７月）



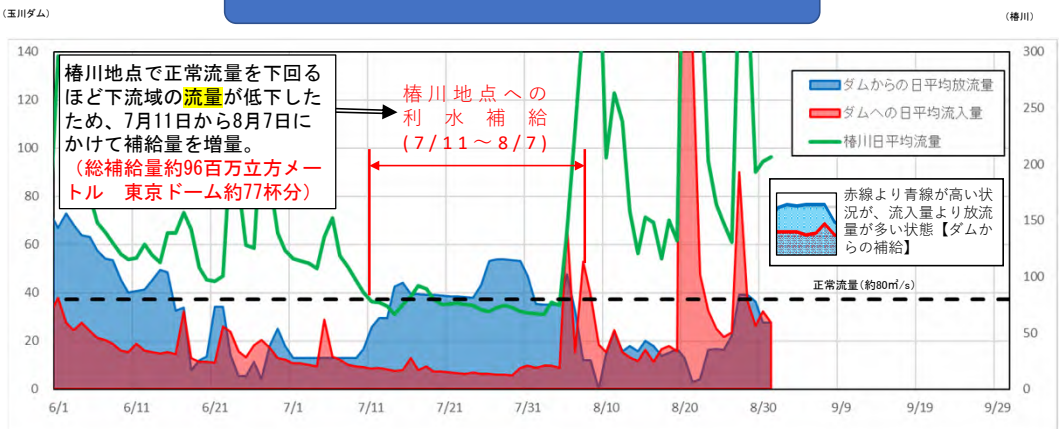
玉川ダム　貯水位状況



玉川水系ダム群水位運用連絡調整会議及び田沢湖運用会議開催状況



玉川ダム　下流補給実績



7．酸性水中和処理（1）

中和処理の概要

玉川の上流渋黒川源流域には、塩酸を多く含む玉川温泉が湧出しており、生活用水にも適さず、発電・河川構造物にも被害を与えることから、ダム事業の一環として、酸性水中和処理施設を整備しました。

中和処理施設は平成元年10月より運転を開始し、玉川温泉の酸性水（pH1.2）の流入により酸性河川となっていた玉川のpH改善に取り組んでいます。







■玉川温泉の特徴

玉川温泉は、大小さまざまな湧出口がありますが、中でも「大噴（おおぶけ）」と呼ばれる湧出口からは、９７℃の温泉が毎分5,000～15,000ℓも噴出しています。

火山性の酸性泉には、塩酸を多く含むものと硫酸を多く含むものがあり、その違いは、火山性ガスが地下水と接触する場所によると考えられています。つまり、地下の深いところで地下水と接触すると非常に溶けやすい塩酸は、地表に到達する前に取り除かれてしまいますが、地表に近いところで地下水と接触すると塩酸を多く含んだままの温泉となります。玉川温泉は後者であり、世界的にも珍しい塩酸を多く含む温泉です。

また、一般の淡水ではそれぞれ0.3mg/ℓ、0.5mg/ℓ程度しか含まれていないアルミニウムや鉄を多量に含んでいることも特徴です。

この玉川温泉は、医学的効用も高いと言われており、全国から多数の湯治客が訪れています。

岩盤浴場としても有名であり、大正11年に天然記念物に指定された北投石が産出されております。

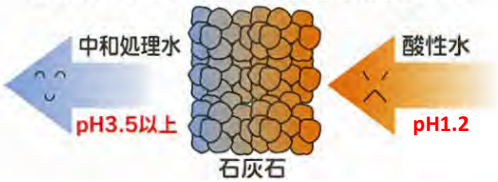


玉川温泉「大噴（おおぶけ）」

中和処理の仕組み

•酸性を弱める石灰石の働き•

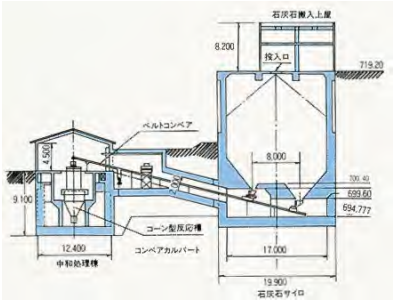
石灰石は酸性水と接触するとその酸性を弱める性質を持っており、これを利用して槽の中で接触反応させています。



適正酸度※　4,000mg/l以下　滞留時間　5分

※適正酸度
石灰石を効率よく溶かすための酸度

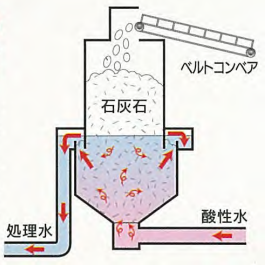
中和処理施設断面図



処理速度を高めるコーン型反応槽

中和反応槽には、上部が円筒形、下部が円錐形のコーン型反応槽を使用しています。

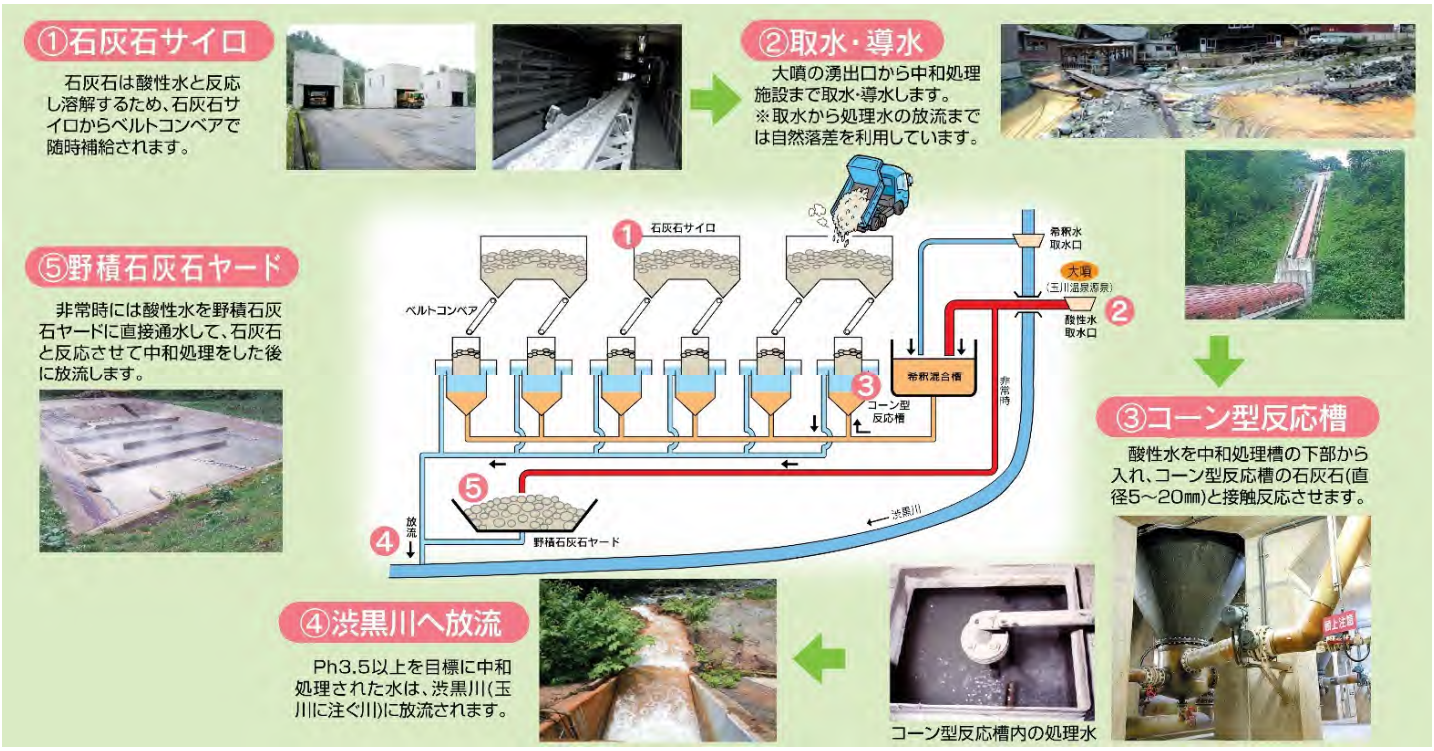
このタイプの反応槽では、コーン部の流速が速くなり撹拌効果が働くため、接触反応が良好となります。



粒状石灰中和方式
石灰石使用量（粒径20～5mm）
約　１５，３００ｔ／年　（４２ｔ／日）
反応槽形状　コーン型槽

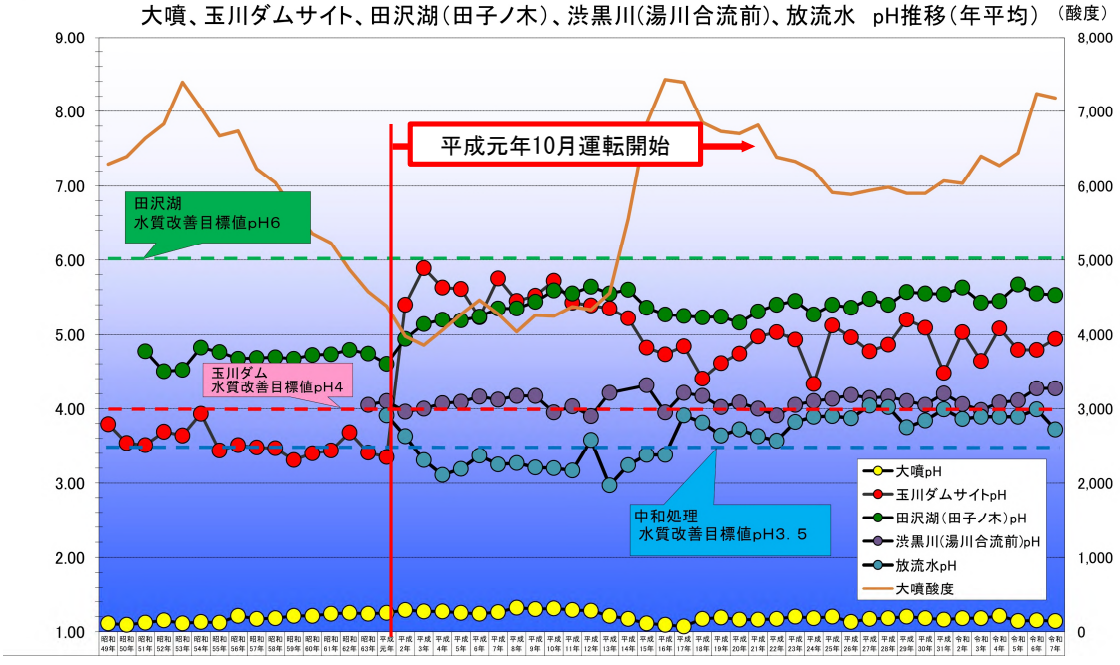
7．酸性水中和処理（2）

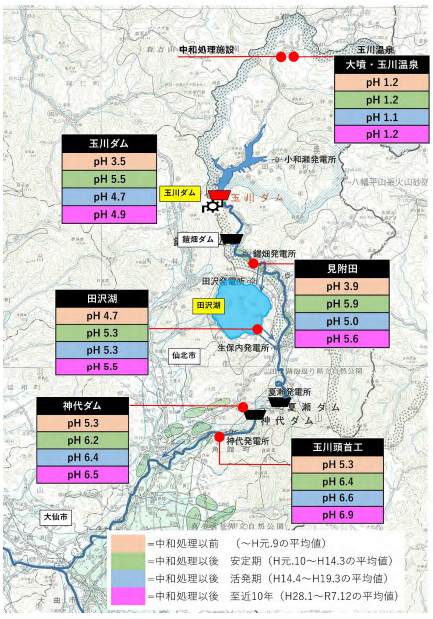
中和処理の流れ



中和処理の効果

平成元年10月からの中和処理施設の稼働により、玉川ダムサイト地点の水質は大きく改善されてきました。
中和処理により当地点では水質改善目標値を満足しています。





8．鎧畑ダムとの連携運用

玉川ダム・鎧畑ダム連携協定締結

- 令和3年6月8日に秋田県知事と東北地方整備局長の間で玉川ダム・鎧畑ダム連携協定が締結されました。
- 管理者は異なるが直近に位置する両ダムが、これまで以上に連携し、洪水対応や利水補給などにおいて、より効果的・効率的なダム運用が可能になるよう、各種取組みを行っていく予定です。

鎧畑ダム諸元

河川名		一級河川雄物川水系玉川
貯水池	流域面積	（直）33.3km2、（間）320.3km2
	湛水面積	2.55km2
	総貯水容量	51,000千m3
ダム	形式	重力式コンクリートダム
	堤頂標高	EL.328.5m
	ダム高	58.5m
	堤頂長	236.0m
	堤体積	１９２千m3
	放流設備	クレストゲート　幅7.0m×高さ8.0m　３門 オリフィスゲート　幅5.8m×高さ5.4m　２門 利水放流設備　高圧ローラーゲート　2.0m×2.25m　１門 ジェットフローゲート　φ1,000mm　1門
総事業費		約24億円

情報発信・連携運用

国が管理する玉川ダムと、秋田県が管理する鎧畑ダムとの連携協定が締結されましたが、管理者が異なるダムでの連携協定は全国初となります。

基本的取組

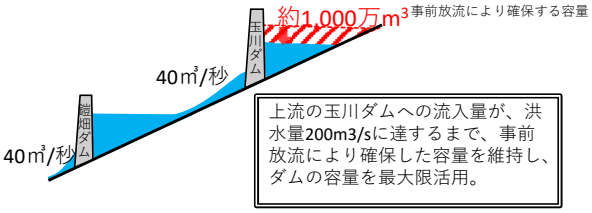
（1）洪水時及び平常時における、より有効な情報提供や住民周知

（2）治水・利水の一体的かつ総合的なダム運用

（3）「玉川ダム・鎧畑ダム連携強化推進室」の設置

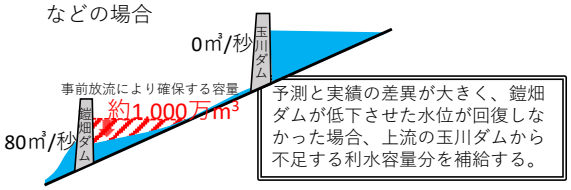
事前放流での連携運用の例

■例）降雨予測精度が比較的高い台風などの場合



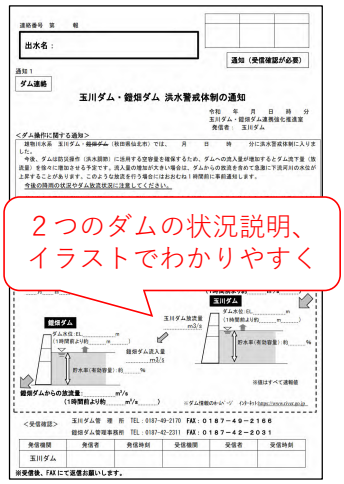
上流の玉川ダムへの流入量が、洪水量200m3/sに達するまで、事前放流により確保した容量を維持し、ダムの容量を最大限活用。

■例）降雨予測精度が比較的低い前線性の大雨などの場合



予測と実績の差異が大きく、鎧畑ダムが低下させた水位が回復しなかった場合、上流の玉川ダムから不足する利水容量分を補給する。

洪水対応の様式を統一



鎧畑ダム遠隔操作機器の設置

- 鎧畑ダム操作において、操作員（秋田県職員）が道路途絶等により、鎧畑ダム管理事務所への参集が不可能または困難であるほか、管理事務所において放流設備操作が不可能な場合などを想定し、玉川ダム・鎧畑ダム連携強化推進室（玉川ダム管理所内）に遠隔操作用機器を設置しています。





玉川ダム・鎧畑ダム連携における今後の取組

事前放流や異常洪水時防災操作（緊急放流）、特別防災操作やハイブリッドダムの取組みとしてのダム運用高度化など、連携による最適な操作方法を検討していきます。

9．玉川水系ダム群連携運用

出水時及び渇水時等において、ダム下流域のダム群・発電施設との連携運用の判断を行い関係機関と調整しています。これらの下流の利水監視は、雄物川本川の秋田市椿川地点（玉川ダムから120km）まで及びます。

玉川ダムでは、下流の利水者（特に電気事業者）との利水調整が多く、渇水時には、田沢湖との連携運用が実施されています。

流水の正常な機能の維持
- 玉川頭首工地点：6m³/s
- 長野地点：11.0m³/s
- 椿川地点：78.6m³/s

の流量確保

上水道
- 1日最大供給：113,900m³

（秋田市に対して）

工業用水道
- 1日最大供給：452,500m³

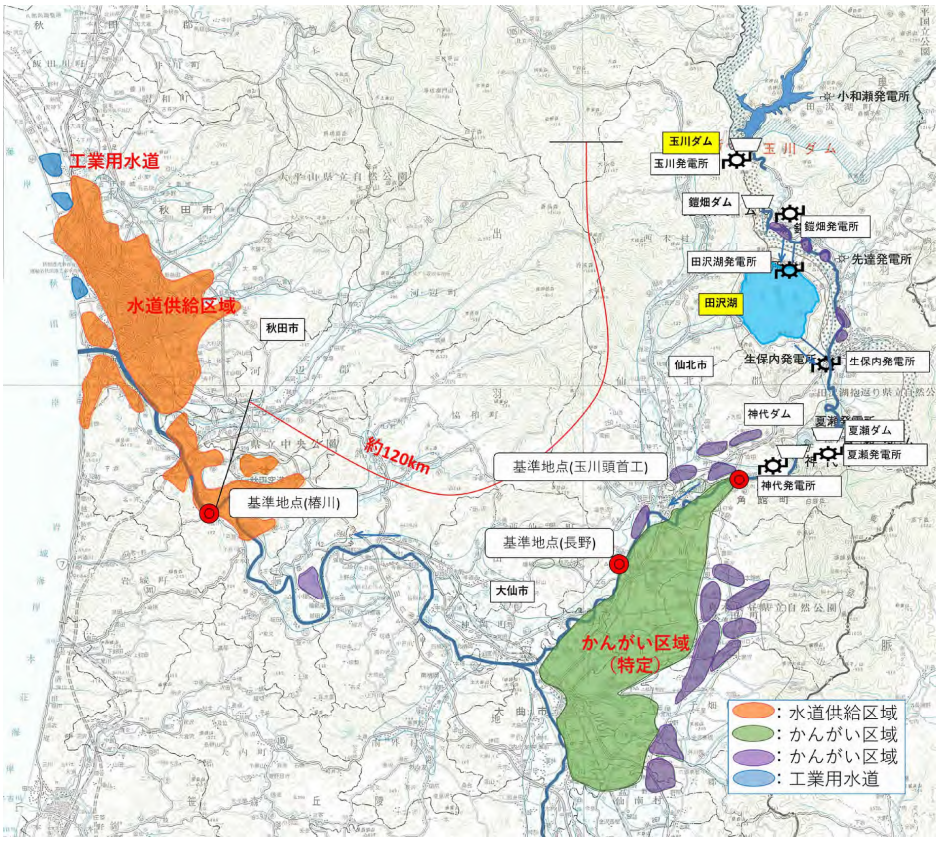
（秋田県に対して）

かんがい用水（特定）
- 約10,200haに対する補給

（雄物川及び玉川沿川の農地に対して）

発電用水
- 常時10.93m3/s
  最大40.0m3/s
- 最大出力23,600kW

（秋田県玉川発電所において）











１０．ダムの運用高度化への取組み

■ダムの運用高度化とは

気候変動への適応・カーボンニュートラルへの対応のため、治水機能の強化と水力発電を両立させる「ハイブリッドダム」の取組の一つで、気象予測も活用しながら、治水容量の水力発電への活用を図る運用です。

従来より高い位置から水を落とすことにより落差（ヘッド差）を大きくすることと、洪水調節容量内に貯留することで利用可能水量を増やし、増電を行う取組です。

【Ⅰ】非洪水期の弾力的運用（4/25～5/24）

洪水調節に支障を及ぼさない範囲で、洪水調節容量の一部に流水を貯留し、これを適切に放流することにより、放流水を用いた水力発電の増電を目的に行う。

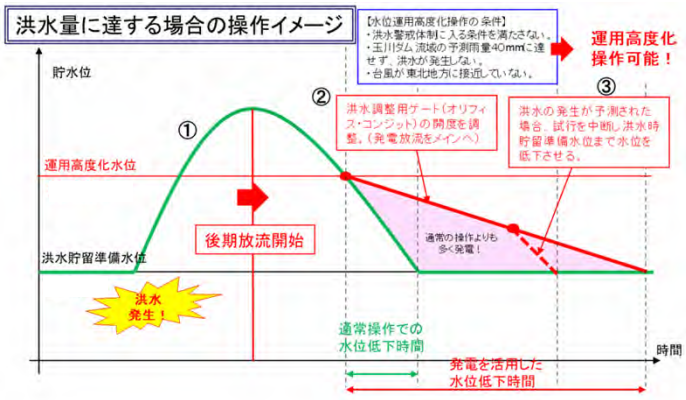
玉川ダムでは、4/25～5/24の期間において、平常時最高貯水位＋50cmの運用が可能であり、令和4年度から実施している。（※令和4年度実施は全国で唯一）

【Ⅱ】洪水後期放流の工夫（6/16～9/30）

洪水調節に支障を及ぼさない範囲で、洪水後期放流を工夫し、発電量増加を目的に行う。

玉川ダムでは、6/16～9/30の期間において、洪水貯留準備水位＋40cmの運用が可能であり、令和5年度より実施している。

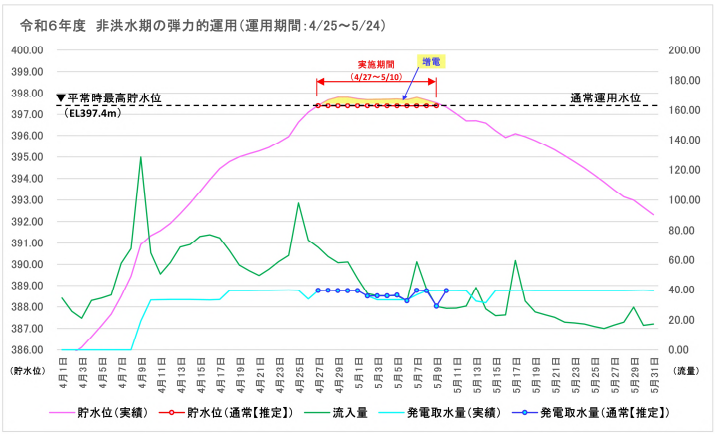
操作イメージを左下図に示す。

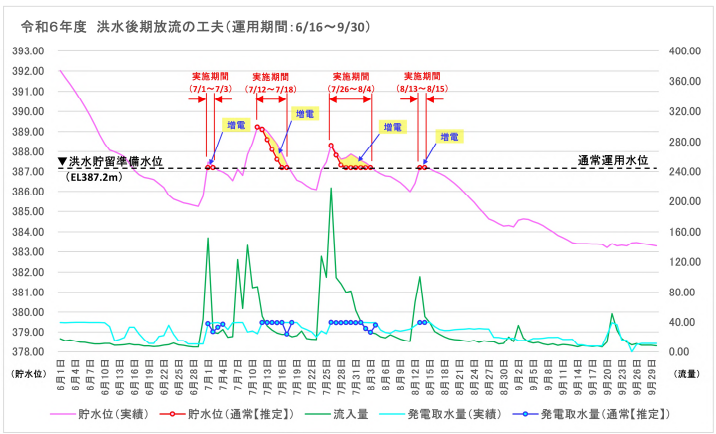


①運用高度化操作を実施しなかった場合、貯水位は緑線のように推移します。（次の洪水に備えるため洪水調節用ゲートより速やかに洪水貯留準備水位に戻す。）

②洪水の後期放流において、所定の水位を下回った場合、洪水調節用ゲートの開度を調整し発電放流をメインに放流します。（発電放流能力が小さいため、水位を戻す日数は増える。）

③万が一、運用中に洪水が予測されたら、洪水調節用ゲートの開度を調整し、洪水貯留準備水位まで水位を低下させる。





■R6高度運用による増電実績

活用容量：千m3、増電量：Mwh

	【Ⅰ】非洪水期の弾力的運用		【Ⅱ】洪水後期放流の工夫							
	①4/27～5/10		②7/1～7/3		③7/12～7/18		④7/26～8/4		⑤8/13～8/15	
	活用容量	発電量	活用容量	発電量	活用容量	発電量	活用容量	発電量	活用容量	発電量
想定電力量（従来操作）		7,272.1		1,163.9		3,160.1		4,465.3		1,416.9
実績電力量（高度運用）	27,646	7,338.8	2,139	1,406.2	16,788	3,389.9	16,340	4,798.0	356	1,430.1
増電分		**66.7**		**242.3**		**229.8**		**332.7**		**13.2**
増電分合計	**884.7**									

※各数値とも速報値であり、今後の精査で変わる可能性があります。

※一般家庭１年分の消費電力量を4,175kWhとして試算
(R3家庭部門のCO2排出実態統計調査(環境省)より)

884.7Mwh
(884,700Kwh)

仙北市の世帯数【10,316世帯（R6.7.31現在）】の約７日分　電力供給相当量

１１．玉川ダムの広報（１）

「森と湖に親しむ旬間」イベントの開催

令和７年７月に森と湖に親しむ旬間イベントとして「宝仙湖まつり」を開催。玉川ダムの堤体見学のほか、森林管理署の協力による丸太コースター作成、警察署や消防署の協力によるはたらく車展示、玉川発電事務所の模型展示、湯沢河川国道事務所・仙北市ＰＲコーナーやストーンアート、クイズラリーなど多彩な催しを実施しました。

※「宝仙湖まつり」は以前実施していた小学生向けの玉川ダム交流会を一般向けに発展させ、令和７年度で３回目。




ダム見学（天端）


ダム見学（堤内）



はたらく車展示


丸太コースター作成



交通観察コーナー


ストーンアート作成

玉川ダム資料室・ダム見学案内

ダム及びダム資料室の来訪者に対して、職員が説明し、資料室やダム堤体内などの案内を行っています。
仙北市のホームページで、観光スポットとして宝仙湖（玉川ダム湖）も含まれており、観光の拠点となっています。

ダム資料室







玉川ダム資料室内





社会科見学状況



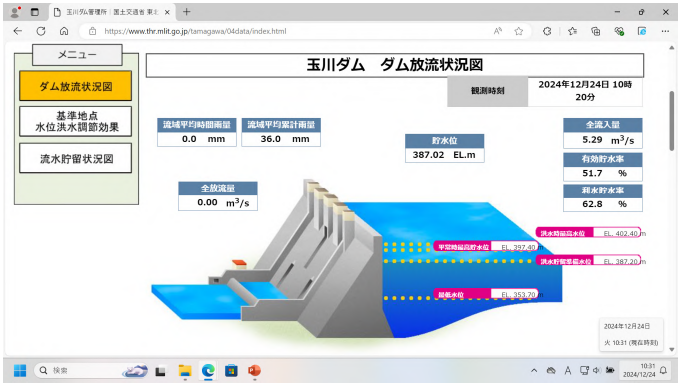
令和８年度玉川ダム見学

- **見学人数　１名様から受け付けています。**
  （中和処理施設は３名様からです。）
- **コース**
  ①取水塔→ゲートハウス（30分）
  ②資料室→取水塔→ゲートハウス（50分）
  ③資料室→取水塔→ゲートハウス→下段監査廊（60分）

１１．玉川ダムの広報（２）

ホームページ・X(旧Twitter)による情報提供

ホームページ、X（旧ツイッター）を活用し、防災・イベント情報のほか、ダム管理の状況や紅葉、降雪などの季節情報等について発信しています。



管理所ホームページによるダムのリアルタイム情報



管理所公式Ｘ（旧ツイッター）

玉川ダム管理所ホームページ
URL：https://www.thr.mlit.go.jp/tamagawa/

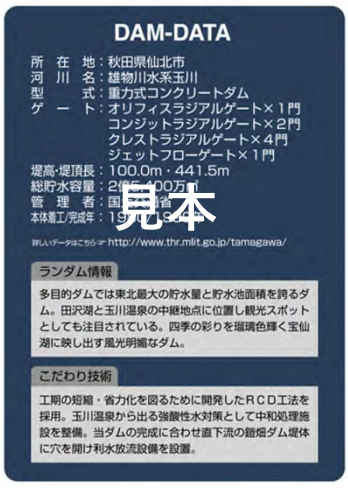
玉川ダム管理所公式Ｘ（旧Twitter）ページ
URL：https://x.com/mlit_tamagawa

１２．ダムカード

玉川ダムのダムカード

令和５年９月に、１４年ぶりにリニューアルしました。
平成１９年の配布開始から、第３弾目のカードとなります。





配布中の第3弾目ダムカード



第1弾目ダムカード
（平成19年）



第2弾目ダムカード
（平成21年）

玉川ダム管理所にて下記時間で配布しています。
８：３０～１７：００（土日祝日を含む）

※出水対応などにより配布時間内でも対応できない場合があります。
※土日祝日は巡回等不在時には、対応できない場合があります。
※郵送対応は行っていませんのでご理解願います。

事　業　費

【玉川ダム事業費】

令和８年度事業費（当初）　◆８２１，１４６千円

（前年度比　１．０４０：工事諸費等を除く）

・主な工事：ダム維持、ＣＣＴＶ工事、放流制御設備遠隔化改良工事、
中和処理設備修繕工事、水質観測装置修繕工事

・主な業務・調査：ダム貯水池堆砂測量、流量観測、自然環境調査
水文データ観測９地点、水質調査１９地点、堤体観測、
男神地区地すべり調査解析、酸性水中和処理施設運転管理

組　織　図

管理所長	１名・・・	総括
・総務担当	・・・	総務、経理、契約等に関する業務
専門官（事務）	１名	
総務係長	１名	
・管理担当	・・・	ダム操作、貯水池運用管理、ダム及び貯水池周辺、中和処理施設の維持管理、広報等に関する業務
専門調査官（土木）	１名	
専門職（土木）	１名	
・機械・電気通信担当	・・・	ダム及び貯水池周辺の電気通信設備及び機械設備の維持・管理等に関する業務
専門官（電気通信）	１名	
電気通信係長（機械）	１名	

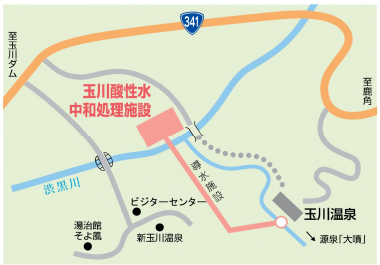
職員計　７名

アクセスマップ





交通　JR田沢湖駅から玉川ダムまで
車で約30分



交通　JR田沢湖駅から玉川酸性水中和処理施設まで車で約60分



国土交通省東北地方整備局
玉川ダム管理所
〒014-1205 秋田県仙北市田沢湖玉川字下水無92
TEL 0187-49-2170（代表）・FAX 0187-49-2166
URL　http://www.thr.mlit.go.jp/tamagawa/
E-mail　thr-tamagawa01@ki.milt.go.jp

令和８年１０月作成